

最優秀鍛造技術者賞で授賞式

日本塑性加工学会・鍛造分科会

鍛造技術の発展に貢献

阪村芳一氏など12名が受賞

(社)日本塑性加工学会の鍛造分科会は「最優秀鍛造技術者賞授賞式ならびに座談会」を7月26日、名古屋市西区牛島町「名古屋通信会館」で開催した。「最優秀鍛造技術者賞」および副賞「工藤記念ゴールドメダル」は、日本塑性加工学会鍛造分科会が我が国の鍛造技術および鍛造産業の発展に多大な貢献をなした技術者を選考し授与するもの。今回が第1回目で、12名が受賞。ねじ・圧造用機械メーカーから阪村芳一氏(㈱阪村機械製作所)、ねじ・圧造用工具メーカーから田中善昭氏(㈱ニチダイ)が受賞の栄に浴した。

石川孝司・名古屋大学教授が全体司会を務め、鍛造分科会主席の中村保・静岡大学教授が挨拶の中で「最優秀鍛造技術者賞は鍛造技術における先達技術者の功績を顕彰することにより、後続技術者の発奮を促し我

が国の鍛造技術の更なる発展を願って2005年に設立され、今回、第1回受賞者として日本の鍛造技術の草分け時代から活躍してこられた12名の方々に授与することになった」と趣旨説明があり、中村主席から受

賞者各氏に表彰状と副賞メダルが手渡された。「工藤記念ゴールドメダル」は、我が国鍛造研究の先駆者であった工藤英明先生が米国コンバスで開催された5th International Conference on Technology of Plasticity(第5回国際塑性加工会議、1996年)において受賞された International Prize for Research & Development in Precision Forging(精密鍛造国際学術賞)の副賞

のゴールドメダルを、工藤

先生の遺族より鍛造分科会に寄付されたのを機会に、分割・改鋳したもの。

引き続き小坂田宏造・大阪大学教授の司会進行で、「日本の鍛造創世期の思い出」をテーマに受賞者による座談会がおこなわれた(同座談会の内容は後日、日本塑性加工学会発行の「塑性と加工」誌に掲載の予定)。

なお第1回受賞者(順不同・敬称略)の氏名・生年・業績時勤務先・業績題目は、以下の通り。

穂田成二(大正12年生、アイコアルファ㈱)、「二輪および自動車部品の精密冷間鍛造技術開発とその工業化」)

楠 兼敬(大正12年生、トヨタ自動車㈱取締役、「自動車部品の冷間鍛造技術の開発および実用化」)

本田栄一(大正13年生、住友金属工業㈱工程部長、「型鍛造クランク軸の製造技術の確立」)

澤辺 弘(昭和3年生、冷間鍛造㈱・社長、「冷間鍛造技術の開発とその工業化」)

阪村芳一(昭和3年生、㈱阪村機械製作所・社長、「パーツフォーマの開発とその工業化」)

大西利美(昭和6年生、愛知製鋼㈱・会長、「鍛造を中心とした生産技術開発、並びに生産体制の確立」)

松本周三(昭和7年生、㈱シマノ・専務、「冷間鍛

造加工における新技術の開発とその工業化」)

田中善昭(昭和7年生、㈱ニチダイ・社長、「精密冷間鍛造金型技術の開発とその工業化」)

村松 勁(昭和10年生、㈱デンソー・生産技術部長、「自動車部品の冷間鍛造技術の開発とその工業化」)

竹本喜道(昭和13年生、㈱小松製作所・生産技術研究所、「温間鍛造技術の開発とその工業化」)

田村 清(昭和13年生、神奈川県産業技術総合研究所、「中小企業への鍛造技術の指導および普及」)

長谷川平一(㈱メタルアート・技術部長、「熱間・冷間複合鍛造技術の開発、並びに発展に対する貢献」)



授賞式



座談会